

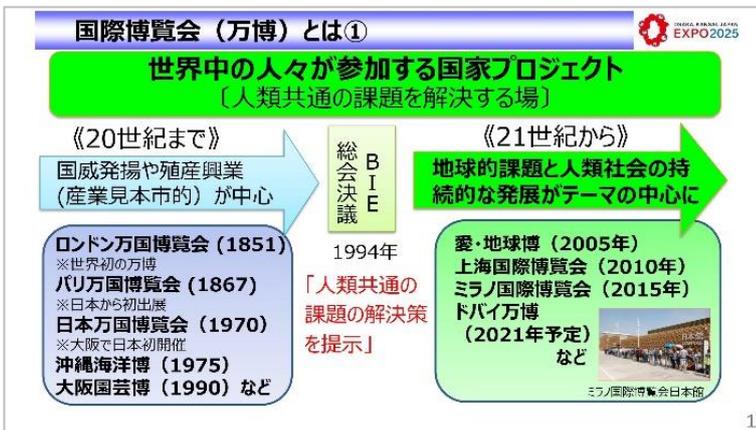
「2025 大阪・関西万博に関する 最新動向について」

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

理事・副事務総長 森 清

今日はお招きいただき、ありがとうございます。経済産業省から博覧会協会へ出向しております森と申します。

1 時間のお時間をいただき、2025 年大阪・関西万博の最新動向についてお話をさせていただきます。今日は多くの方々にご覧になっていたと思います。是非最後までお付き合いいただきますよう、よろしくお願い致します。



まず万博、国際博覧会とは何かということですが、世界中の人々が参加する国家プロジェクトで、20世紀までは国威発揚や殖産興業を中心としたものでした。日本万国博覧会(1970年)いわゆる大阪万博もその中に位置づけられていますが、21世紀からは地球的課題と人類社会の持続的な発展がテーマの中心となってきました。この中には、愛・地球博(2005年)もご紹介します。上海国際博覧会(2010年)は7000万人の方が来られましたけれども、この万博は地球的課題と人類社会の持続的な発展とともに、中国が先進国に仲間入りしたという

国威発揚的な2つの要素を兼ね備えたものでした。今回、2025年の万博では、ぜひ、SDGsを具現化したような、21世紀らしい万博をやりたいと考えています。ただし、説教くさい万博ではなくて面白い万博に、子どもさんから大人、おじいさんやおばあさんまで喜んでもらえるようにすることが一番大切だと思っています。



BIE(博覧会国際事務局)を中心に国際博覧会条約というものが、その中で国際博覧会は登録博覧会と認定博覧会という2種類に区分されています。登録博覧会は大規模博覧会ですので、各国がパビリオンを出すためにしっかり計画を立てて準備をする必要があることや、財政的な事情も考慮して、条約で5年に1回の開催となっています。大阪万博や愛知万博などがこれにあたります。認定博覧会は小規模博覧会で期間は3ヶ月以内となっていますが、昔はそのような決まりがなく、記載されている沖縄海洋博、科学技術博、花と緑の

博覧会はいずれも6ヶ月でした。特に国際花と緑の博覧会(1990年)は約2300万人という大規模博覧会に匹敵する来場者を集め、大成功となったことが記憶されています。この関西大阪の地で、1970年の大阪万博、1990年の花博、そして2025年の大阪・関西万博が続くわけですが、関西人は万博好きだというセオリーを、是非2025年も実証したいと思っています。

70年万博がきっかけで生まれたもの、広がったもの

■ウルトラソニック・バス (人間洗濯機) ■ファーストフード (ケンタッキーフライドチキン (日本初) 陸) ■ワイヤレステレホン (携帯無線電話機)



■動く歩道 (万博を契機に全国的に認知) ■電気自動車 (国内初の試み)

【その他】ファミリーレストラン、缶コーヒー、フランスパン、ブルガリアヨーグルト、空気調構造、電動自転車、テレビ電話、民間空輸会社、カプセルホテル、左側通行、地蔵冷蔵システム、メタボリズム、ピクトグラム (サイン計画) など

3

このスライドは、70年万博がきっかけで生まれたもの、広がったものを列挙しています。最近、関西のメディアでは70年万博特集などを放映していただいているが、是非東京オリパラが終わった後は、東京はもとより北海道から沖縄各地に至るまで、メディアの方々に万博の特集を組んでいただけるように準備する必要があると思っています。この70年万博で出された、人間洗濯機、ファーストフード、携帯電話(ワイヤレステレフォン)、動く歩道、電気自動車などは、人間洗濯機を除いて今では当たり前になっているものばかりですが、当時の人々を

驚かしていたということです。70年万博に匹敵するような2025年の課題は何かということ、有識者の方々と議論しているところです。バーチャル会場などが、今回新たにトライする分野かと考えています。後ほど説明させていただきます。写真の下のその他欄にも、ファミリーレストラン、缶コーヒーなど色々書いてあります。おそらく50代後半から80代の方までは、「ああ、そうだった、そうだった。」ということだと思いますが、是非若い方も「こういうもんだったんだ」というように、あとで資料をもう一度見返していただければと思います。

大阪・関西万博のテーマ・コンセプト

テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
サブテーマ	Saving Lives (いのちを救う) Empowering Lives (いのちに力を与える) Connecting Lives (いのちをつなぐ)
コンセプト	People's Living Lab (未来社会の実験場)
会場	夢洲 (大阪市此花区)
開催期間	2025年4月13日(日) - 10月13日(月)
想定入場者数	約2,800万人

4

今度の大阪・関西万博は、テーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」、コンセプトが「未来社会の実験場」です。「未来社会のデザイン」という言葉と、「未来社会の実験場」という言葉がほぼ同じ意味だとすると、「未来社会の実験をすることによって、いのち輝くものを現出させよう」ということが、この大阪・関西万博のテーマであり、コンセプトであります。会場は、夢洲(ゆめしま)というところで淀川の河口付近にあり、そこから瀬戸内海がバースと広がっているロケーションです。開催期間は2025年4月から10月迄です。こういった6ヶ月のイベント

はたいい後半に人が集中しますので、最後の1ヶ月は相当な混雑が予想されます。4月～6月の熱中症にならない良い時期に、是非多くの方に来場していただきたい。特に小学生、中学生、高校生の方々の遠足や修学旅行としても来てもらいたいと考えています。また、せっかく大阪・関西でやるわけです。関西国際空港はアジアやほかの地域から安く来られるLCCが結構あります。コロナ禍の前はベトナムからセールのおかげには1万円以内で往復できる便がありました。ぜひアジアの若い学生さんにも、4月～6月に来ていただきたい。そして修学旅行の場合は、3年ぐらい前から行先を決めて旅行資金の積み立てを始めますので、まさしく今お願いをしております。あと4年ありますが、4年は長いようで短いわけで、今からどんどん手を打っていかねばならないところがたくさんあるということです。また、想定入場者は2800万人と予測しており、そのうちインバウンドは350万人見込んでいます。花博は2300万人が来られましたが、花博と同様に、夢洲は大阪の中心から結構近いので、多くの方に来ていただけたと思っています。インバウンド350万人の予測については、2～3年前はもっと来ていただけたのではという声をいただいておりました。インバウンドがほぼゼロになってしまった現状において、4年後ですが、大阪・関西のインバウンド復活に向けて万博も貢献したいと思っています。

テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」 

一人ひとりが自らの望む生き方を考え、**それぞれの可能性を最大限に発揮できるように**するとともに、こうした生き方を支える**持続可能な社会を、世界が共創 (Co-Creation) していく**ことを推進。

いのち、生きる、生き抜く



いのちの誕生から38億年

5

情報を共有しながらコロナと戦っている状況になっています。自然界にある万物の命に加えて、人類の命についても再認識が必要な時期にきています。そうした意味で、今回のテーマは、世界各国の多くの共感が得られるのではと思っています。

テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」ですが、右下に「『いのち』の誕生から 38 億年」とありますが、70 年万博の時は、作家の小松左京さんが、「人類の祭典」とおっしゃったのですが、さしずめ 2025 年の万博は「人類も含む万物の命の祭典」ではないかと思います。人類もそのエコシステムの中で、万物の命の中で人類も含めて考えていたところ、今回コロナを経験することになりました。スペイン風邪の時も全世界に広がりましたが、今回はインターネットがありますので、世界中からコロナの情報がオンタイムで入ってきて、80 億人が、同じ

万博 = 「SDGs + beyond」 達成への飛躍の機会 

- 2025年は、SDGsの目標年である2030年の5年前
- SDGs達成に向けた取組を加速させる絶好の機会
- 2030年のSDGs達成にとどまらず、+ beyond (2030年より先) に向けた目標が示されることが期待される。



6

「SDGs+beyond」達成への飛躍の機会ということですが、2025 年は SDGs の目標年である 2030 年の 5 年前となります。SDGs は国連で 2015 年に採択されましたが、その 5 年前ぐらいからサステナブルという概念が議論されており、2015 年の 3 年前の 2012 年リオサミット+20 で、SDGs の概念が決まりました。2000～2015 年は MDGs (ミレニアム・ディベロップメント・ゴールズ) の期間でありまして、最後の 5 年間の議論で SDGs へ移ったわけです。さて、2030 年以降 SDGs の次に来るものは何かという議論になりますが、先程の講演で大坪様が

SSV (サステナブル・シェアリング・バリュー)、3B (ビルド・バック・ベター) という概念を提言されました。この関西大阪から、ぜひこの 184 日間の万博の会期中、またその前から SDGs の次は何をめざすべきかという議論を重ね、万博開催期間中の終盤に「SDGs +beyond」宣言のようなものを、この夢洲から、大阪・関西から発信したいと思っているわけです。

今日本では、経済人の方々を中心に多くの方が 17 色の SDGs のロゴバッジを付けておられます。このロゴ、デザインの力は凄いもので、17 色という SDGs の概念については、日本では小学生からお年寄りの方まで、世界で一番広まったのではないのでしょうか。ただこの SDGs が出来上がる過程に参加した日本人は、そんなに多くなかったと思います。是非この「SDGs+beyond」である 2030 年からの目標に関しては、日本が万博を契機に議論を尽くし、その概念をつくったとなれば、この万博の大きなレガシーとして残せるのではないかと思っています。ちなみに、いま SNS の拡散で人間の心が傷つけられる問題が世界中に広がっていますが、このようなデジタル社会の功罪は SDGs の中には入っていない、最近出てきた課題の 1 つです。このようなことを、万博開催に至る過程の中で、今から議論していきたいと思っています。

テーマの実現に向けて

万博の目的であるテーマの実現に向けて、事業のガイドラインであるPeople's Living Lab（未来社会の実験場）というコンセプトのもと、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施する。

<p>意義</p> <ul style="list-style-type: none"> いのち輝く未来社会へ SDGs達成・SDGs+eyondへの飛躍の機会 Society5.0実現に向けた実証の機会 日本の飛躍の契機に 	<p>手段（何をやるのか）</p> <p>【事業コンセプト】 People's Living Lab（未来社会の実験場）</p> <table border="1"> <tr> <td>世界との共創</td> <td>テーマ実践</td> <td>未来社会ショーケース</td> </tr> <tr> <td>公式参加パビリオン</td> <td>「TEAM EXPO 2025」プログラム テーマフォーラム</td> <td>未来社会ショーケース事業</td> </tr> <tr> <td>公式行事</td> <td>日本館 自治体等の出展 風船パビリオン 催事</td> <td>バーチャル万博</td> </tr> </table>	世界との共創	テーマ実践	未来社会ショーケース	公式参加パビリオン	「TEAM EXPO 2025」プログラム テーマフォーラム	未来社会ショーケース事業	公式行事	日本館 自治体等の出展 風船パビリオン 催事	バーチャル万博
世界との共創	テーマ実践	未来社会ショーケース								
公式参加パビリオン	「TEAM EXPO 2025」プログラム テーマフォーラム	未来社会ショーケース事業								
公式行事	日本館 自治体等の出展 風船パビリオン 催事	バーチャル万博								
<p>目的</p> <p>【アーチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives) <p>【リブテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> Saving Lives (いのちを救う) Empowering Lives (いのちを輝かせる) Connecting Lives (いのちをつなぐ) 	<p>基本計画では「手段（何をやるのか）」を中心に構成</p>									

7

テーマの実現に向けての手段ですが、「世界との共創」の項目にある公式参加パビリオンとは、各国が参加して下さるパビリオンのことを指します。公式行事とは、開会式や閉会式以外で、仮に150カ国の参加国があれば、ほぼ毎日ナショナルデーを設定し、10時～15時くらいまで万博会場内で公式行事として開催するものです。ぜひ夕方以降は、大阪や京都・神戸などで各国のレセプションを行っていただき、万博会場以外でも各国の使節団の方とのビジネスや文化交流を展開して下さいと思っています。テーマ事業とは8名のプロデューサーが担当されている事業で、「TEAM EXPO 2025」プログラムやテーマフォーラムは後ほど説明させていただきます。それ以外に日本館、自治体等の出展、民間パビリオン、催事などを行います。USJやディズニーランドと同様に、近代の万博においても催事の役割が高まっています。右側の、未来社会のショーケースの欄ですが、未来社会の実験場をこの万博会場を中心に展開したいということ、バーチャル万博を是非行いたいと考えています。ドバイ万博がどこまでバーチャルへ取り組まれるか分かりませんが、大阪・関西万博が本格的な形で初めてバーチャルに乗り出したというものにしたいと思っています。

(公社) 2025年日本国際博覧会協会

▶役員（2021年1月15日時点/敬称略）

<p>会長（代表理事） 中西 宏明 一般社団法人日本経済団体連合会会長</p> <p>事務総長（代表理事） 石毛 博行 前独立行政法人日本貿易振興機構理事</p> <p>副会長（理事） 松本 正義 公益社団法人関西経済連合会会長</p>	<p>尾崎 裕 関西商工会議所連合会会長、大阪商工会議所会頭</p> <p>深野 弘行 一般社団法人関西経済同友会代表幹事</p> <p>塚本 能文 京都商工会議所会頭</p> <p>家次 恒 神戸商工会議所会頭</p> <p>三村 明大 日本商工会議所会頭</p> <p>櫻田 謙悟 公益社団法人経済同友会代表幹事</p> <p>吉村 洋文 大阪府知事</p> <p>松井 一郎 大阪市長</p> <p>仁坂 吉伸 関西広域連合会長</p> <p>國部 毅 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会財務委員会委員長</p>
<p>理事</p> <p>寺田 千代乃 アートコーポレーション株式会社名誉会長</p> <p>高橋 政代 株式会社ビジョン代表取締役社長</p> <p>池坊 専好 華道家元池坊次期家元、一般財団法人池坊華道会副理事長</p>	<p>副事務総長（理事）</p> <p>森 清 前近畿経済産業局長</p> <p>竹内 廣行 前大阪府副知事</p> <p>樺 典夏 前公益財団法人関西経済連合会常務理事</p>

8

これが日本国際博覧会協会の役員です。（詳細省略）役員のラインアップからも、日本の経済界、地元自治体、国などの国家プロジェクトであることがお分かりいただけると思います。

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～

2025年に開催される国際博覧会（大阪・関西万博）の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（令和2年12月21日 閣議決定）

「1.はじめに（3）大阪・関西万博の意義」から抜粋

～ 略 ～

日本は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち **2050年カーボンニュートラル**、**脱炭素社会の実現**を目指すとともに、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を踏まえ海洋プラスチックごみ対策を国際社会とともに推進することとしている。また、AIやIoT、ロボット、ビッグデータをはじめとするデジタル技術を活用して様々な社会的課題の解決と経済発展を両立させる、**持続可能でインクルーシブな「Society5.0」の実現**に向けて取組を進めている。

これらの取組を加速するために2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）の機会を活用するとともに、大阪・関西万博を契機に、日本は、「課題解決先進国」として、**人間一人一人がそれぞれの可能性を最大限発揮できる持続可能な社会を、国際社会と共に創ることを**を推進し進める。

9

政府における大阪・関西万博の基本方針です。あまり知られておりませんが非常に重要なものです。愛知万博の時は無かったのですが、今回東京オリパラに倣って昨年12月21日に閣議決定したものです。閣議決定とは、国としての行動を決意したことを示す大きな役割を持つ文章であり、これを策定できたことは非常に意義がございませう。どんなことが書いてあるかと申しますと、「はじめに」のところには、「2050年カーボンニュートラル」や「脱炭素社会の実現を目指す」、「持続可能でインクルーシブな『Society5.0』の実現に向けて取り組みを進める」、「人間一人一人がそれぞれの可能性を最大限発揮できる持続可能な社会を国際社会とともに作る」ということが書かれており、各論的な部分もこの中に入っております。役所には色々な省庁がございませうが、各省庁を挙げてこの万博を支えていくというのがこの閣議決定でより明確になったということです。



10

これは航空写真ですが、黄色で会場予定地と描いてあるところが夢洲です。我々のオフィスは、咲洲と書いてあるところで、昔のワールドトレードセンター、今は大阪府の庁舎となっていますが、その43～44階にございますので、是非我々のオフィスにお越しください。海と川とに囲まれた夢洲を上からご覧いただくと、この万博が「海の万博」「海と空の万博」と言われるのがよく分かります。



11

万博会場全体が155ヘクタールで、全部がパビリオンに使えるわけではないのですが、USJ、ディズニーランド、ディズニーシーがそれぞれ概ね50ヘクタールですので、その3倍の大きさがあります。

大阪・関西万博の5つの特徴

- 1 海と空を感じられる会場
- 2 世界中の「いのち輝く未来」が集う万博
- 3 未来の技術と社会システムが見える万博
- 4 本格的なエンターテインメントを楽しめる万博
- 5 快適、安全安心、持続可能性に取り組む万博

12

先程説明しました閣議決定の基本方針に沿って、我々協会として基本計画を策定しました。基本計画で示したことが、ここにある5つの特徴です。順に説明していきます。

特徴1 海と空を感じられる会場

大阪・関西万博の会場は、四方を海に囲まれたロケーションを活かし、**世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられるデザイン**とする。円環状の主動線を設け、主動線につながるように離散的にパビリオンや広場を配置することで、誘致の時から「非中心・離散」の理念を踏襲しつつ「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」を象徴する会場を創出する。

13

1つ目の特徴が「海と空を感じられる会場」ということで、世界とつながる海と空が印象強く感じられるデザインとすると書いてありますが、会場の中にこの大屋根(リング)を設けたいと思っています。15メートルぐらいの高さで、ここへ来場者の方々に登ってきてもらい、歩いていただく。ここからであれば、瀬戸内海や、淡路島、淡路大橋、神戸、関西国際空港などが見渡すことができます。おそらく夕日の名所になるのではないかと考えております。全長が2km、700mぐらいの内径ですが、多分宇宙からも見えるのではないのでしょうか。このリングを設けることで「多様でありながらひとつ」を象徴する

会場として、もともと誘致の時から「非中心・離散」の理念がございましたので、このコロナ禍を踏まえた「つながり」というものをプラスさせていただき、「非中心・離散」プラス「つながり」ということを、会場設計でのアピーリングポイントとさせていただきます。

会場デザイン① ～3つのエリア～

万博会場はパビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールドの3つのエリアで構成する。

- グリーンワールド**
 - 会場の西側の海に面した緑地エリア。
 - 屋外イベント広場や交通ターミナル、エントランス広場等、大人数が滞留することのできる開けた空間とする。
- パビリオンワールド**
 - パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリア。主幹線としてリング状のメインストリートと放射的に大小の広場を設け、ここからすべてのパビリオンにアクセスできる。
 - メインストリートの上部には大屋根（リング）を設置。
 - メインストリートから離れた位置に憩人を促した広場（静けさの森）を作り、これにつながるようテーマ館が配置される。
- ウォーターワールド**
 - 水景を活用した涼しいエリア。水辺に面して飲食施設を配置するとともに、水上イベントの舞台としても活用。

14

会場は、グリーンワールド、パビリオンワールド、ウォーターワールドという 3 つのエリアで構成されます。先ほど申しました大屋根は、ウォーターワールドの上にも突き抜ける予定でございます。

会場デザイン② ～各国パビリオン・テーマ館～

各国パビリオンは（A1～A50まで）全く大屋根の下で自動採光に面している。テーマ展示のパビリオンは、南側の水景から中央の「静けさの森」を結ぶラインの両側に向かい合って配置される。「いのち」をめぐり8つのテーマ展示が、それぞれ独立しながらも連携し、共鳴し合って大きなストーリーを描くことができるように、隣接し配置とする。

15

会場デザインは、リングの中の青い色をしているところが各国のパビリオンでございまして、中心部に、甲子園球場の半分ぐらいの大きさで、静けさの森というものを設置します。その静けさの森から、ウォーターワールドにつながる場所を、テーマ館として 8 つのパビリオンを、8 人のプロデューサーの方に作っていただこうと考えているわけです。

会場デザイン③ ～民間パビリオン、VIP対応～

民間パビリオンは、東と西のエントランス付近に配置する。民間パビリオンもテーマの実現に向けて共に取り組むパートナーとして位置づけ、多彩な企業による未来社会のデザインを行う。

16

次に、民間パビリオンを、この赤く塗られている 9 箇所配置しています。民間パビリオンや各国のパビリオンはこれから調整して決まってくるもので、数も今後変わってくるかと思えます。愛知博の時が9つであったので、現段階ではこのように設置しています。右側に東エントランスがありますが、鉄道(地下鉄)で来てくださった方々がこの東エントランスから入っていただくこととなります。左側の西エントランスは、シャトルバスやタクシーなど道路を使って来てくださった方に入っていただきます。鉄道で来られた方と、道路を通じて来てくださった方のエントランスを完全に分けたいと思えます。



17

これは、「TEAM EXPO 2025」事業というものをスタートさせており、これは技術開発にしても SDGs に貢献するものでも良いのですが、そうした活動の中から優れたプラクティス(事例)を、このベストプラクティスエリアで、週替わりや 2 週間替わりか、もしくはもっと長い期間になるかまだ決まっていますが、発表していただく機会を設けたいと思っています。その上にあるモビリティエクスベリエンスエリアとは、先進的なモビリティの体験エリアということで、できれば 2025 年に、ここで空飛ぶクルマを実現したい。1人乗りから4~5人乗りなど、様々なプロジェクトが今動いており、そのための敷地を確保しているわけです。



18

大催事場、小催事場、庭園などを、右下の辺りに設け、庭園の右側(東側)には、迎賓館を置きたいと考えております。新たな試みとしまして、左側にメッセというのがございます。週替わりになるか、2 週間になるかわかりませんが、起業家や中小企業の方々の技術を展示したり、物品・産品・食品を展示したりするようなメッセ会場を作りたいと思います。これば誘致の時にはなかったものです。あと左側に大きな屋外イベント広場や、色々な技術や芸術作品を展示するギャラリー、ベストプラクティスエリアなどを設けます。ベストプラクティスエリア

会場内の外周は結構距離がありますので、外周トラムを運行したいと考えています。どういったバスを運行させるかというのは、カーボンニュートラルなどを含めた検討課題となっています。

公式参加パビリオン

世界各国の公式参加者(参加国や国際機関)は、それぞれの立場からSDGs達成に向けた優れた取り組みを持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会の姿を描く。

サブテーマ	公式参加パビリオンのテーマ展開のトピック例		SDGs 17のゴール
一つ以上を選択	個人の取組、自分自身の意識改革、啓発による気づき	コミュニティ、企業、政府、国、社会等による取組	一つ以上に取り組み
Saving Lives (いのちを救う)	生活の中の健康、健康寿命の延伸、心(精神)の健康、季節と衣食住、食と生活等	ライフサイエンス、労働環境の改善、貧困問題の解決、児童死亡率の低減等	17, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
Empowering Lives (いのちに力を与える)	自己実現、ノアクション、美しい観光、文化、芸術、スポーツ、学び等	遠隔教育、ライノ・リークスタイル、産業高度化、エンジェル投資等	17, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
Connecting Lives (いのちをつなぐ)	デジタル活用、地球環境を意識した行動、気候変動への適応等	オンラインプラットフォーム、クラウド・ファンディング等	17, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16

150の国及び25の国際機関の参加を目指す

19

公式参加パビリオンというのは各国のパビリオンのことで、12月1日にBIE総会で登録申請書の承認を受け、各国へ公式な参加招請をスタートさせています。各国へは、サブテーマとして「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」のうち1つ以上を選択いただき、もちろん3つ選択しても良いのですが、それに取り組んでいただく。またSDGsの17のゴールについても、いずれかに取り組んでもらいたい。その中でイメージーションを膨らましていただき、おそらく各国パビリオン毎にプロデューサーが設けられると思いますが、ぜひ楽しい万博となるようなパビリオンを作ってくださいということで、今150の国、25の国際機関の参加をめざして、招請活動をしております。

会場デザイン・会場運営プロデューサー

会場デザインプロデューサー
藤本 壮介
(建築家)



©David Vintiner

会場運営プロデューサー
石川 勝
(プランナー、プロデューサー)



※敬称略

20

今までお話ししました会場デザインや会場運営は、藤本壮介さん、石川勝さんにプロデュースいただきました。藤本壮介さんは、著名な建築家です。石川勝さんは、愛知博や1990年代以降行われた地方博などのプロデューサーをされていた方でございます。

特徴2 世界中の『いのち輝く未来』が集う万博

大阪・関西万博では、150の国と25の国際機関をはじめ、企業やNGO/NPO、市民団体等が、**世界中から『いのち輝く未来社会』への取り組みを持ち寄り**、SDGsの達成とその先の未来を描き出していく。そのための具体的な取り組みとして、各界のトップランナー8人が自ら創り上げる**テーマ事業**や、会期前から会期後までを通して行うベストプラクティスの共創事業「**TEAM EXPO 2025**」プログラムなどを実施する。

テーマ事業の基本方針

多彩な手法を組み合わせたテーマ表現

建築 展示 鑑賞 映像 パーティ体験

独立と連携の両立



21

次に2つ目の特徴である、「世界中の『いのち輝く未来』が集う万博」について説明します。8つのパビリオンのテーマ事業を展開するわけですが、「多彩な手法を組み合わせたテーマ表現」と「独立と連携の両立」の2つを基本方針にしており、今テーマプロデューサー8人の方に議論をしていただいております。

テーマ事業を担う8名のテーマ・プロデューサー①

 「いのちを知る」 福岡 伸一 生物学者、青山学院大学教授	● 生命系全体の中にある私たちのいのちの在り方を確認する。
 「いのちを育む」 河森 正治 アニメーション監督、メカニックデザイナー	● 宇宙・海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりを感じ、共に守り育てる。
 「いのちを守る」 河瀬 直美 映画監督	● 危機に瀕し、人類は「分断」を経験する。「わたし」の中の「あなた」を認めるいとなみの行方に、多様ないのちが、それぞれに、壁られてゆく未来を描く。
 「いのちをつむぐ」 小山 薫堂 放送作家、脚本家	● 自然と文化、人と人とを紡ぐ「食べる」という行為の価値を考え、日本の食文化の根幹にある「いただきます」という精神を発信する。

※敬称略

22

その8人が、「いのちを知る」が福岡先生、「いのちを育む」が河森さん、「いのちを守る」が河瀬さん、「いのちをつむぐ」は食が中心となり小山さん、「いのちを拓げる」が石黒さん、「いのちを高める」が中島さん、「いのちを磨く」が落合さん、そして「いのちを響き合わせる」が宮田さんです。今、リアル会合やオンラインを使って議論を繰り返していただいております。ぜひご期待いただきたいと思います。このように、博覧会協会が主催者としてテーマを決め、8人のプロデューサーにお願いし、企業協賛を求めていくといったやり方は70年万博には無かった新たな試みで、是非成功させたいと思っています。

テーマ事業を担う8名のテーマ・プロデューサー②

 「いのちを拓げる」 石黒 浩 大阪大学教授、ATR心脳特別研究所室長	● 新たな科学技術で人や生物の機能や能力を拡張し、いのちを拓げる可能性を探求する。
 「いのちを高める」 中島 さち子 音楽家、数学研究者、STEAM教育家	● 遊びや学び、スポーツや芸術を通して、生きる喜びや楽しさを感じ、ともにいのちを高めていく共創の場を創出する。
 「いのちを磨く」 落合 陽一 メディアアーティスト	● 自然と人工物、フィジカルとバーチャルの融和により、自然と調和する芸術の形を追求し、新たな未来の輝きを求める。
 「いのちを響き合わせる」 宮田 裕章 国成義塾人学教授	● 個性あるいのちといのちを響き合わせ、「共鳴するいのち」を共に体験する中で、一人ひとりが輝くことのできる世界の模式図を描く。

※敬称略

23

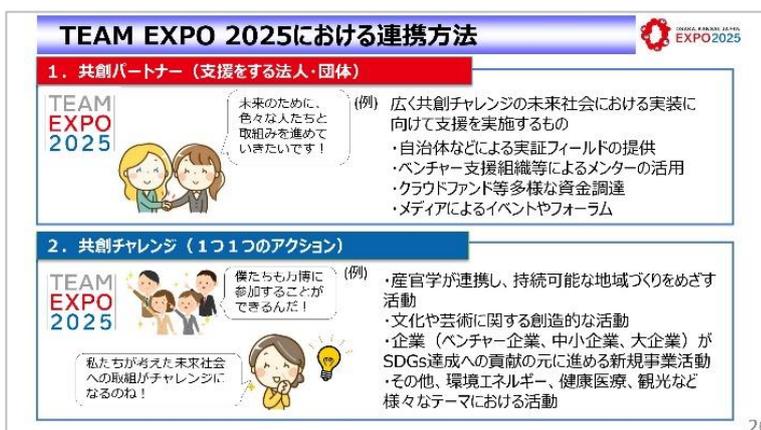


いただいた 20 校近くの小中学校の先生がいま教えて下さっています。小学校 5 年生は、最後の 10 時間目の授業にポスターを作る。そして中学 2～3 年生は、何分間か決めて発表会を行うということで、この 3 月には 10 時間目の授業があります。ぜひこれを関西、日本全体に広げていきたいと思っておりますが、こういった授業と共にもう 1 つ、「開催前から、社会課題に取り組む大学、自治体、NPO、個人、企業等による組織を越えた共に創る『共創』を促進」ということで、この「TEAM EXPO 2025」事業を展開していきたいと思っています。



その次に「TEAM EXPO 2025」の説明をさせていただきます。今日、ご覧になっていらっしゃる方の中で、もし「TEAM EXPO 2025」に興味を持ってくださった方は、今からできる話でございますので、是非参加していただきたいと思っております。去年から立ち上げ、何をやってきたかといいますと、万博や社会課題解決を学ぶ小中学校での教育プログラムの開発です。大阪府教育庁と連携し、博覧会協会が小学校 5 年生と中学 2～3 年生を対象にした 10 時間分の「万博と SDGs」という教科書を作成しました。その教科書に基づいて、手を上げて

「TEAM EXPO 2025」のプログラムですが、万博の会期前は、オンライン上や会場外で色々なアイデアやメッセージを持って活動する人々と、それを支援する人々が共創するプラットフォームを立ち上げます。会期中はベストプラクティスエリアでそれを披露してもらい、またテーマフォーラムという色々なシンポジウムを実施しますので、そこにも登壇してもらいたいと思っています。会期後、先ほど申しました「SDGs+eyond」宣言でありますとか、レガシーとしてそのような活動を万博会期後も継承してもらいたいと思っております。



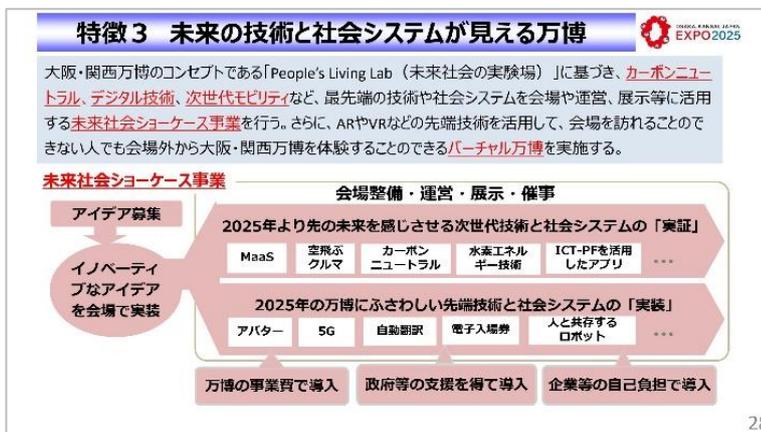
んな」様などに入っております。文化や芸術に関する創造的な活動、これは東京からも参加していただいております。また大企業が SDGs 達成への貢献の元に進める新規事業活動などもあります。このプログラムは昨年 10 月からやっていますが、現在共創パートナーと共創チャレンジ併せて約 50 の団体に加盟していただいております。共創チャレンジには、中学校のロボットサイエンス部やダンス部などにも入っております。我々としても中学校や高校の活動にも積極的に取り込んでいきたいです、またベンチャー企業や中小企業にも多数ご参加いただきたい。中小企業の中には、万博に向けてエネルギーのかからない

建築物を作っていくという有志による共創チャレンジも生まれています。共創チャレンジや共創パートナーになっていただいて、「TEAM EXPO 2025」事業をもっと活用していただいて、万博期間中は万博会場内のベストプラクティスエリアやメッセなどを活用して発信していく方策を考えていきたいと思っております。博覧会協会のホームページから 2 クリックで「TEAM EXPO 2025」のところに入れます。もう 1 クリックしていただければ、共創パートナーや共創チャレンジがどんなことをやっているかが出ておりますので、ご関心がおありの方は、どんなことが始まっているのかということを是非ご覧いただければと思います。我々は「TEAM EXPO 2025」のネットワークを拡充して、「TEAM EXPO 2025」の方々へどんどん情報をお伝えしようと思っています。大学もごございます。企業の「TEAM EXPO 2025」では、単独よりも複数の企業でされていることが多い状況です。学校や地域コミュニティもごございます。共創パートナー、共創チャレンジは、今から万博と一緒にできる事業ですので、是非ホームページからご覧頂ければと思います。我々にお問い合わせいただき、ご検討頂ければと思います。

企業・団体の参加		
パビリオン出展 <small>(敷地渡し方式)</small> 建ぺい率70%以下(原則) 高さ制限12m以下程度 敷地面積約3,500㎡(9区画程度) 一部を共同館とする場合も想定	テーマ事業協賛 主催者が企画するテーマ事業に協賛社として参加 資金協賛 設備・サービス提供	
未来社会ショーケース事業参加 企業・団体が持つ先端技術やシステムを用いて、会場内での実証や実装を行う	「TEAM EXPO 2025」プログラム参加 会期前より2025年に向けてテーマの実現を目指して共創する取組への参加及び協賛 テーマ実現に向けた活動の創出・支援 資金協賛	
催事参加 主催者催事への協賛又は参加催事の持ち込み 資金協賛 催事プログラムの持ち込み	営業参加 物販・飲食・サービスによる参加 会場内営業施設出店 ライセンスビジネス参加	その他 指定寄附 施設提供・貸与 広報参加 運営参加

27

企業・団体の参加形態でございますが、まずパビリオンの出展がございます。テーマ事業協賛とは、8つのテーマにご協賛していただきたいということです。未来社会ショーケースの事業参加は、後ほどご説明いたします。「TEAM EXPO 2025」プログラム参加は、先ほどお話ししたものです。催事参加というのは、大催事場、小催事場、屋外広場などで行うもので、もう少し検討したうえで、参加の形態を決めていきたいと考えています。営業参加は、レストランや土産物の販売などですが、こちらも今年1年じっくり検討させていただいて、来年に営業参加の具体的などところを発表させていただきたいと考えております。



28

次に 3 つめの特徴としまして、「未来の技術と社会システムが見える万博」ということでございます。未来社会ショーケース事業は 2019 年より「People's Living Lab」ということで、アイデア募集をしまして、現在 1200 近いアイデアが集まっています。その 1200 の中で、いまテーマごとにアイデアの合体のようなことが起こっている現状でございます。会場整備や運営、展示、催事において、2025 年の先の未来を感じさせるものとして、「MaaS」や「空飛ぶクルマ」「カーボンニュートラル」「水素エネルギー」

「ICT プラットフォームを活用したアプリ」などの実証を考えておりますし、2025 年万博にふさわしい先端技術と社会システムの実装ということで、「アバター」や「5G」、「5G+beyond」というものも視野に入ってきました。また「自動翻訳」を万博会場でどこまでできるか、つまり「日本語と英語」「日本語とフランス語」、「英語とフランス語」といったコミュニケーション、70 年万博の時に外国人からサインしてもらった感じのコミュニケーションを、自動翻訳を使ってどこまで同時にやれるかということが今回の万博の非常に大きな課題だと思っています。

また電子入場券、チケットシステム、人と共存するロボットみたいなところにも取り組んでいきたい。これは万博の事業費で導入するもの、政府等の支援を得て導入するもの、企業等の自己負担で導入していただくものなどがございまして、こういうものを積極的に取り入れていきたいと思っております。

未来社会ショーケース事業の具体例

COVID-19を乗り越えた先の新時代の国家プロジェクトとして、2025年以降の未来を感じさせる次世代技術の実証と2025年にふさわしい先端技術の実装を目指す。

カーボンニュートラル	デジタル	モビリティ
		
<small>出典：Adobe Stock</small> ・カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースとしての導入	<small>出典：Adobe Stock</small> ・リアルとバーチャルを融合した未来のエンターテインメントの実現 ・デジタル技術を活用した入場制度、来場者サービスの実施	・次世代モビリティとしての利活用が期待される空飛ぶクルマにより来場者に新たな移動体験を提供

29

先ほどアイデアの融合といったことを申しましたが、我々は今この3つが大きな課題だと考えております。1つ目はカーボンニュートラルですが、2050年に実現をめざすカーボンニュートラルを、2025年の段階でどこまで万博会場内で見せられるかが大きな議論となっております。2つ目のデジタルですが、リアルとバーチャルの融合を、2025年に一番最先端なものをどこまで万博会場で見ていただくことができるか、もしくはバーチャル会場として80億人に世界のどこからでも入っていただけるようにすることができるか、というのが課題となっております。3つ目のモビリティですが、冒頭より空飛ぶクルマということを申し上げていますが、水素船のような構想もあり、モビリティというのをどこまで円滑にできるか、円滑となると「MaaS」ということにもなります。新たなモビリティの手段が果たして2025年の万博会場に間に合ってきて、来場者に楽しんでいただけるかというのが大きな課題です。今まさにこの3つが浮かび上がってきているということです。これ以外にも、色々なアイデアを吸い上げていきたいと考えておるわけでございます。

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～

「ii. 基本的な考え方 (2) 「未来社会の実験場」の整備」から抜粋①

大阪・関西万博を、新たな技術やシステムを実証する場と位置付け、国内外の多様なプレイヤーによるイノベーションを促進しそれらを社会実装して「People's Living Lab (未来社会の実験場)」とする。

AIやビッグデータ等の先端技術を活用し、社会の在り方を根本から変えるような都市設計の動きが国際的に急速に進んでいる中、日本においては実践の場が不足している。**万博会場という期間限定の「特別な街」を、様々な挑戦の場とし、開催期間前から多様なプレイヤーによる共創を促すことでイノベーションの誘発や社会実装を推進する。**AI、ビッグデータ等の先端技術を活用し、**待ち時間や言語の壁といった様々な制約から解放された超スマート会場を目指す**など、会場でSociety5.0社会を体現する。具体的には、会場設計、環境・エネルギー、移動・モビリティ、情報通信・データ、会場内エンターテインメントといった分野を中心に実証プロジェクトを複数生み出し、会場内外に実装していく。例えば、革新的なイノベーションを用いた**カーボンニュートラルの実現に資する技術の実証や、自動走行ロボットを用いた配送サービス**等の会場運営での実証、陸、海、空における**最先端のモビリティ技術の導入**を通じ、空飛ぶクルマ等の新たな移動体験を提供する。こうした実証プロジェクトにおいて、阻害要因となる規制があれば、大阪・関西万博を新たな技術及び新たなチャレンジを生み出す場とするために規制緩和等を積極的に進めていく。

30

そしてこの基本方針、閣議決定に戻りますが、万博会場という期間限定の特別な街を様々な挑戦の場にする。待ち時間や言語の壁といったさまざまな制約から解放される。カーボンニュートラル、自動走行ロボットを用いた配送サービス、最先端のモビリティ技術の導入などが書かれています。

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～

「ii. 基本的な考え方 (2) 「未来社会の実験場」の整備」から抜粋②

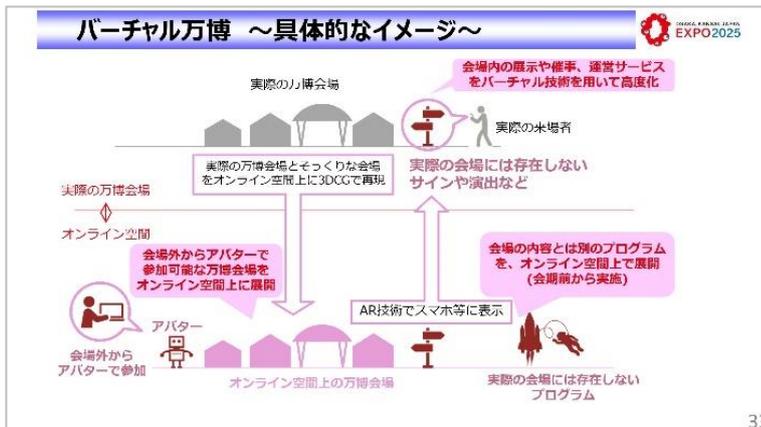
また、新たな技術等の実証の場としては、科学技術・イノベーション (AI、バイオテクノロジー、量子技術、マテリアル等)、宇宙、海洋などの分野における様々な官民プロジェクトと歩調を合わせた取組が求められる。例えば、**科学技術基本計画をはじめとした諸計画・構想と連携し**、政府及び民間が行う技術開発プロジェクトを含む多くの社会実装・実現に向けたプロジェクトの実証の場として、会場内外のスペース・地域などを活用する。**宇宙**については、衛星データを活用した革新的なサービスや月面等への人類の活動領域の拡大に向けた取組を含め、世界に向けて宇宙利用の未来像を示していく。四方を海に囲まれた海洋立国である日本が世界に誇る海洋科学技術 (例えば、海洋環境の保全等の地球規模の課題の解決)、海洋産業におけるイノベーションの創出とSociety5.0の実現、津波などの海の脅威からの国民の安全安心の確保、人類のフロンティアである海洋の理解等に貢献する世界最先端の研究開発成果を積極的に発信する。また、**健康・医療**については、世界最高水準の医療の提供に資する医療分野の研究開発を推進するとともに、その成果を積極的に発信する。さらに、2030年や2050年を念頭に国等で実施されている**巨大実証プロジェクトに関しては、可能な限り、2025年段階での「現状と将来像」を会場内外で提示する**。例えば、5Gを含めた情報通信インフラを会場に整備し、チケットینگ、決済及びAIによる高度な**多言語同時通訳**等のサービスを実装する。加えて、2030年頃の導入を目標に開発が進められる、5Gの次の世代の無線通信システムである**Beyond5Gの導入**に向けて、「Beyond5Greadyショーケース」として大規模な展示を行い、世界の人々が日本の最先端技術を体感できる機会を提供する。

31

また、科学技術基本計画をはじめとした諸計画構想と連携し、宇宙分野、海洋分野、健康医療分野へ注力することが示され、巨大実証プロジェクトに関しては可能な限り2025年段階での現状と将来像を会場内外で提示するとしています。また多言語同時通訳、Beyond5Gの導入といったことも基本方針に書かれています。閣議決定ですので、各々の省庁に担当意識を持っていただき、それが実践できるようしっかり検討、協力し、現実のものにしていきたいと考えております。

バーチャル万博		
	万博会場で行うプログラム (会期中実施)	万博会場とは別のプログラム (会期前から実施)
万博会場 (来場者向け)	会場内の展示や催事、運営サービスをバーチャル技術を用いて高度化	
オンライン空間 (オンライン参加者向け)	会場外からアバターで参加可能な万博会場をオンライン空間上に展開	会場の内容とは別のプログラムをオンライン空間上で展開

32



33

特徴4 本格的なエンターテインメントを楽しめる万博		
ウォーターワールドの水上ショーや会場内の施設や通路を用いたプロジェクションマッピング、イベント広場や催事場など大小様々なステージで行う音楽や芸能などの催事、伝統芸能やポップカルチャーなどの展示体験催事、全国各地の祭りやパレードなど、にぎわいと感動にあふれた本格的なエンターテインメントを楽しめる万博を創出する。		
主催者催事 主催者が協賛企業等と共に行う催事		
劇場催事	広場催事	環境演出催事
音楽	ステージ催事	ウォーターワールドの水上ショー
演劇	映像	プロジェクションマッピング
芸能	パレード/祭り	アートプログラム
未来型エンターテインメント		展示体験催事
テーマフォーラム		メッセ展示会
		ギャラリー展示会
		伝統文化展示会
参加催事 文化団体や自治体等の参加により行う催事		

34

その中の「バーチャル万博」について少し説明させていただきます。

万博会場で行うプログラムにおいては、会場内の展示や催事、運営サービスをバーチャル技術を用いて高度化と書かれています。USJ やディズニーランドなどのパビリオンでは専用メガネを装着しますが、その発展形をイメージしていただければ良いかと思います。オンライン空間で万博会場で行うプログラムについては、会場外からアバターで参加可能で、つまりアフリカからでも入っているわけです。ただしアフリカだと時差が反対になりますので、おそらく万博会場が閉まっている時に参加していただくことになるのかもしれませんが、会場外からアバターで参加可能な万博会場をバーチャルで実現化したいということです。また、万博会場とは別のプログラムをオンライン空間上で展開していくことが可能ですので、それはゲームかもしれませんし、SDGs 的なフォーラムかもしれませんが、万博期間を待たずに、なるべく早い期間からこのような取り組みをしていきたいと思っております。70 年万博の時は、万博会場とは別にエキスポランドというのがありました。我々はバーチャル上に、エキスポランドのようなものを展開したいと思っております。

次の 4 つ目の特徴として、「本格的なエンターテインメントを楽しめる万博」ということです。これはまだまだこれからですが、劇場催事として、大催場、小催場がございます。広場催事もございます。環境演出催事として、ウォーターワールドの水上ショーやプロジェクションマッピングなどを考えております。また展示体験催事ということで、メッセ展示会、ギャラリー展示会、伝統文化展示会もがございます。劇場催事の一番下にテーマフォーラムというのがございますが、これは先ほど申しました「TEAM EXPO 2025」事業などをやってくださった方々に、もしくは世界から哲学者や有識者などに集まっていただき、いのちについて考える、もしくは Society5.0 について考えるといったシンポジウムをイメージしております。その上の未来型エンターテインメントは、まだ今はアイデア募集中の段階でございます。

イベント・催事のイメージ

■屋外イベント広場のイメージ

■ウォーターワールドで行う環境演出催事のイメージ

35

屋外イベント広場のイメージが左側で、ウォーターワールドで行う環境演出催事のイメージが右側です。

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～

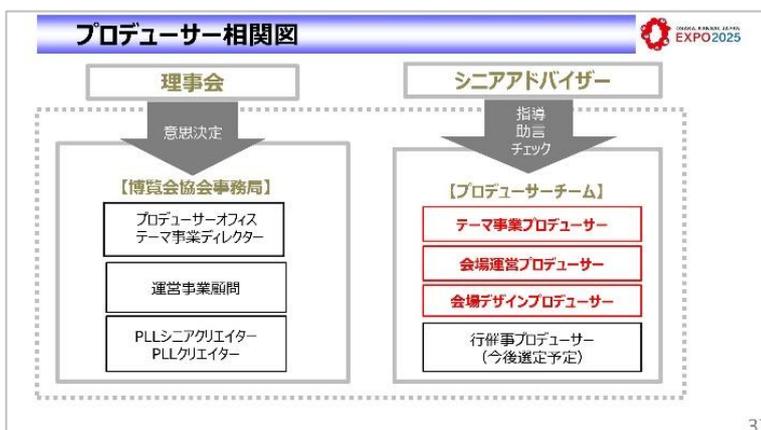
「II. 基本的な考え方 (8) 大阪・関西万博を契機とした多様な文化、価値観の重なりから抜粋」

大阪・関西万博は、日本が「文化芸術立国」や「観光立国」、「農林水産物・食品輸出国」としての魅力を世界に発信していく上で極めて重要な機会である。

日本の「和」の精神は、協調や調和を重んじ、多様な価値観を重ね合わせることで、新たな価値を生み出してきた。異なる価値観の融合は、持続可能な社会の実現に不可欠であり、大阪・関西万博の機会を、日本の文化や伝統の魅力を育み、発信し、継承するとともに国内外の多様な文化や価値観が交流しあい重なりあう、文化創造の場とする。また、日本には、伝統的な芸術や最先端技術を用いた各種アート・デザイン、ファッション、ポップカルチャー、和食・日本酒その他の食文化、祭り、伝統工芸品、和装や花、日本建築など、多岐にわたる文化が存在する。こうした多様な文化・歴史・伝統について、分野内、分野間の連携を図りながら、オンライン発信などのICT等の活用や、参加国と地方都市との連携などを通じて、世界に向けて積極的に発信する。

36

ここでも、基本方針の閣議決定を確認しておきたいと思います。日本が文化芸術立国や観光立国、農林水産物や食品輸出国としての魅力を世界に発信する、国内外の多様な文化や価値観が交流しあう、各種アート・デザイン、ファッション、ポップカルチャー、和食・日本酒その他の食文化、祭り、伝統工芸品、和装や花、日本建築などをオンラインで発信。参加国と地方都市の連携などが書いてあり、これから関西大阪だけではなく、北海道、東北から九州、沖縄まで色々などところに行って、リアルになるかバーチャルになるかはわかりませんが、万博会場でやりませんかということを訴えかけていきたいと思っています。



プロデューサー相関図です。右側のテーマ事業プロデューサー8名、会場運営プロデューサーの石川さん、会場デザインプロデューサーの藤本さんは決定しました。行催事プロデューサーはまだ決まっていないということでございます。

特徴5 快適、安全安心、持続可能性に取り組む万博



過剰な混雑が生じないよう、電子チケットを活用した、**入場事前予約制度**や**パビリオン予約制度**等の導入を検討するなど、平準化に積極的に取り組み、快適な万博体験の実現を目指す。さらに、**感染症対策**や**防災対策**、**サイバーセキュリティ対策**による安全安心の実現、サステナブルやインクルーシブなど**持続可能性に配慮した運営**などに取り組んでいく。

「平準化」への取り組み	「安全安心」への取り組み	「持続可能性」への取り組み
入場できる期間や時間帯を限定した入場券の設定	感染症対策	サステナブルな万博運営
入場事前予約制度	防災対策	インクルーシブな万博運営
電子チケットの導入	リスク対策	
パビリオン予約制度	情報セキュリティ対策	

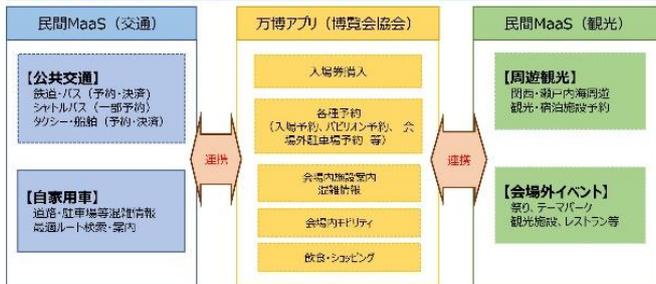
38

最後の5つ目の特徴として、「快適、安全安心、持続可能性に取り組む万博」ということでございます。入場事前予約や、パビリオン予約制度、あと感染症対策にも取り組んでいきたいと思っております。平準化に向けた取り組みとしては、6カ月間の後半に集中することなく最初から大勢の方に来てもらえるようにということもありますし、1日の中で昼間だけではなく、夜にも来ていただくという1日の中での分散ということがあります。あと安全安心の取り組みについては、必須でございます。サステナブルな万博、インクルーシブな万博という「持続可能性」への取り組みも、これから決めていきたいと思っております。

(参考) 万博アプリで提供するサービスイメージ (例)



万博の会場情報（入場券購入、入場・パビリオン予約、施設案内、モビリティ予約等）を中心に、その前後の移動・観光（交通機関、渋滞情報、駐車場予約、周辺の観光情報等）情報を一体的に提供することで、**ストレスなくスムーズな移動・サービスが可能となる。**



39

博覧会協会で万博アプリを作りたいと思っております。入場券購入から色々なことがアプリでできるようにします。そのアプリが、民間 MaaS と、観光や交通面で協力・連携できればと思っております。

大阪・関西万博の各分野での計画



催事計画 劇場催事、広場等での祭り・パレード、光と映像を駆使した環境演出催事、ミュージアム等での展示体験催事や未来型のエンターテインメントを行う。	入場制度 開会2年程度前から入場券販売開始を検討する。平準化を目的とした入場券の設定や、入場事前予約制度、電子チケット、パビリオン予約制度の導入を検討する。	営業活動 飲食施設においてはSDGsの目標としても掲げられている食品ロスの削減や、多様な来場者に適応したサービス等の導入、混雑日対応も考慮した施設構成とする。	防災・セキュリティ 会場内での災害を未然に防止し、万一災害が発生した場合には消防活動や避難誘導を円滑に行い、被害を最小限に抑えるための措置を講じる。
情報通信 情報セキュリティを確保し、安全で安心な万博の運営を実現する。万博参加体験を通じて得た情報はビッグデータとして管理、社会に還元する。	輸送 想定来場者数2,820万人の円滑な来場を実現するために、鉄道・道路・空路・海路等の既存交通インフラを最大限活用したアクセス手段を計画する。	持続可能性に配慮した運営 脱炭素社会の構築等に向け、温室効果ガスの排出抑制、リサイクル・リユース・リサイクル(3R)などに取り組む。	リスク管理 早期からリスクを洗い出し、顕在化を抑制する。ドバイ万博、東京2020オリンピック・パラリンピック等大規模イベントでの感染症対策を参考に必要な対策を講じる。

40

大阪・関西万博の各分野での計画として、催事計画、入場制度、営業活動、防災セキュリティ、情報通信、輸送、持続可能性に配慮した運営、リスク管理などを決めていきます。スケジュールのところでご説明しますが、この2年間で勝負だと思っております。

広報プロモーション

国内外の様々な人々、国・自治体・企業・団体等の多様なステークホルダーに、①大阪・関西万博への興味や関心を持ち、②参加意欲を高めてもらい、③万博会場への出展、来場へと繋げていき、そして、④会期前及び会期中に創出されたレガシーを伝え、後世に継承していくため実施していく。

-2022	2023	2024	会期中	閉幕后
フェーズ1 機運醸成	フェーズ2 前売券 販売促進	フェーズ3 期待感拡大	フェーズ4 来場促進	フェーズ5 成果継承
基本計画	個別事業実施計画	入場予約	プレスセンター	公式記録
公式参加・ 企業動員	会場建設開始	展示工事・運営準備	来場者のSNS	メッセージ発信

41

広報プロモーションですが、2022年までは機運醸成のフェーズです。まず関西大阪から、そして東京オリパラが終わった後は日本全体に、そして2022年は是非アジアにも出ていきたいと思っています。そして2023年には前売券を発売したいと思っています。その前売券発売までに、どこまで機運醸成できるか、この2021年、2022年というのが大事だと考えています。

ロゴマークの決定

最優秀作品

グループ名：TEAM INARI(チーム イナリ)
作者(代表者)：シマダ タモツ
(アートディレクター/グラフィックデザイナー)



コンセプト

踊っている。跳ねている。弾んでいる。だから生きている。大阪・関西万博。1970年のデザインエレメントをDNAとして宿したCELLたちが、2025年の夢洲でこれからの未来を共創する。関西とも、大阪府ともとれるフォルムを囲んだメインシンボルだけでなく、CELLたちは、文字や数字を描きだし、キャラクターとしてコミュニケーションする。自由に。有機的に。発展的に。いのちの輝きを表現していく。

70年大阪万博
ロゴマーク



42

ロゴマークです。関西大阪はメディアが強く、色々な番組を持っておられ、新聞でも1面を大阪枠にすることが可能でありますので、それで万博の宣伝をしていただいておりますが、東京の友人に聞くと万博の事は全然新聞に掲載されていないと言われるわけです。本当に今から頑張らないといけないと感じています。ただこのロゴマークだけは、北海道から九州沖縄の方にまで、「気持ち悪いなあ」から入って、「なんか親しみあるなあ」のような感じを持っていただいたり、ワイドショーなどのテレビ番組で色々取り上げていただきました。今は

唯一、このロゴマークのおかげで、何とか2025年に万博があるということを小学生を含めて日本中の方に何となく分かってもらっている段階だと思います。その現実を我々も十分認識し、そこを何とか打破していきたいと思っています。今日、東京など関西大阪以外の方も聞いてくださっているとありますが、是非いまお話しさせていただいたような事を、近くにいらっしゃる方にも伝えて頂ければと思います。

シニアアドバイザー

協会における重要課題や専門的事項について、専門知識や技術、経験等を有する方から助言を受けるため、シニアアドバイザーを設置

安藤 忠雄	(建築家)
池坊 専好	(華道家元池坊次期家元)
大崎 洋	(古本興業ホールディングス株式会社代表取締役会長)
桂 文枝	(落語家)
河瀬 直美	(映画監督)
ロバート キャンベル	(国文学研究資料館長)
コシノ ジュンコ	(デザイナー)
五神 真	(東京大学総長)
ウスビ・サコ	(京都精華大学学長)
千 宗室	(茶道裏千家家元)
西尾 章治郎	(大阪大学総長)
宮田 亮平	(文化庁長官)
山極 壽一	(前京都大学総長)
山崎 直子	(宇宙飛行士)
吉田 憲司	(国立民族学博物館長)

※五十音順・敬称略

43

シニアアドバイザーの方々として、安藤先生から吉田先生まで、東京を含め日本全体から入っていただいております。

アンバサダー

“大阪・関西万博の顔”として万博の魅力を伝える「2025年日本国際博覧会協会アンバサダー」を発表

コブクロ (ミュージシャン) **佐渡 裕 (指揮者)** **ダウントウン (タレント)**

宝塚歌劇団 (エンターテインメント) **松本 幸四郎 (歌舞伎役者)** **山中 伸弥 (京都大学 iPS細胞研究所所長・教授)**

※五十音順・敬称略

アンバサダーは、このような方々になってもらっております。ダウントウンさんや、山中伸弥先生は誘致の時からやっております。コロナ禍であまりご活躍していただけない状況ですが、アンバサダーの方々には、これからどんどん活躍していただきたいと思います。

これまでの取組

2017年 2018年 2019年 2020年 2021年

4月 9月 11/23 1月未4月 10月 12月 2/14 7/13 8/25 9/16 12/1 12/21 12/25 10月-3月末

開催国決定
万博立候補及び開催申請について関係者間で協議
立候補国(文部科学省)に「コンドシ」をBIEへ提出
1校申請
2025年日本国際博覧会協会設立
万博博覧会
公益社団法人移行
シアターバリアの設置
BIEへの登録申請に係る関係決定
登録申請書をBIEへ提出 ※各国へ示す実行計画

プロデューサーの選定
アンバサダーの発表

ロゴマークの決定
博覧会推進本部が発足(国)

BIE総会(登録申請書の承認)
基本方針を閣議決定(国)
基本計画策定・公表(協会)

※万博開催に必要な基本方針
考え方をまとめた協会のマスタープラン
1年延期

ドバイ博(登録博)

各国への参加招請活動

これまでの取り組みですが、2018年11月23日に開催国が決定され、2020年12月1日にBIE総会で登録申請書が承認され、各国へ参加招請活動が公式にできるようになりました。そして12月21日基本方針が閣議決定され、12月25日に協会として基本計画を策定したということです。

今後の主なスケジュール

協会は、基本計画をもとに、各分野毎に詳細な計画を1~2年かけて作るフェーズへ入っていく。

2020年 2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

4月13日(月)~10月13日(月)

基本計画策定
基本方針を閣議決定(国)
BIE総会で登録申請書の承認(国)
ロゴマークを決定
プロデューサーを選定

大阪・関西万博開催

各国への参加招請活動、ガイドライン整備等
企業・団体・自治体等の参加招請活動、ガイドライン整備等
「TEAM EXPO 2025」プログラム、未来社会ショーケース事業
テーマ事業計画・設計
催事計画
入場券販売実施計画
来場者サービス基本計画
情報通信システム整備計画
万博ICT-PF整備計画
リスク・危機管理計画 他

入場券前売販売
来場者サービス実施計画 他
パビリオン等建築工事
バス輸送計画
会場外駐車場等の設計整備・運営計画
水上アクセス等計画 他

協会が発足して基本計画の策定まで2年経つわけですが、ここまでが第1フェーズでして、2021~2022年が第2フェーズだと考えております。色々な計画や詳細設計を作っていく段階です。そして2023~2024年が第3フェーズで、実際に工事や、入場券の前売り販売などに入ります。今は第2フェーズに入った段階ということでございます。

会場整備スケジュール(想定)

整備内容等

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
登録申請書提出								
登録承認								
ドバイ博10/1~3/31								
単独館土地引渡(4月予定)								
4/13~10/13								

○単独館《参加国・企業》
-パビリオンA：50棟
-企業館：9棟

○日本館・自治体館《国・府・市》
-日本館：1棟
-自治体館：1棟

○パビリオン等《協会整備》
-パビリオンB・C：42棟
-テーマ館：11棟
-営業施設、催事施設、迎賓館など：23棟 ほか

○会場内基盤・インフラ整備《協会整備》
-園路・道路
-電気、ガス、通信、給水、汚水、排水、消火、冷水、供給 ほか

○港湾局土地造成工事《港湾局》
-埋立・盛土：30ha

○環境影響評価《協会》
-行政協議 方法書・準備書・評価書 事後調査等実施

会場整備スケジュールですが、2021~2022年にかけて設計し、2023年から工事に入り、2025年を迎えるという段取りを考えております。色々な工事がございます

2025年大阪・関西万博での共創①

会場出展など
 企業パビリオンへの出展のほか、テーマ事業への協賛や営業参加、催事参加など、多様な参加メニューを用意
 営業参加では、万博会場にメッセ的な場所を作ることや、トレーラーなどを用いた簡易な出店方法などを検討中

万博会場に訪れる2,800万人の活動をビッグデータとして収集し、医療やモノづくりなどへの活用が期待できる

未来社会ショーケース事業
 会場での先端技術の実証実験や、社会実装される新技術への参加

未来社会の実験場

- 清掃・ゴミ運搬・物流・モビリティでのロボット活用
- 空飛ぶ車
- 5Gによる次世代通信、会場内外のMaaSの連携

48

2025年大阪・関西万博での共創ということで、是非会場に出展をお願いしたい。また未来社会ショーケース事業など、何らかの形でご参加いただきたいということでございます。

2025年大阪・関西万博での共創②

TEAM EXPO 2025
 ・共創パートナー
 ・共創チャレンジ

SDGsの達成やSociety5.0の実現に向けた活動など

SDGsへの取組を実現するための行動を、万博を通じて世界に向けて発信！

防災・減災に関する取組

感染症対策

子どもや高齢者との交流イベント

環境・エネルギー分野などの新事業・新産業創出を目指す活動

技術で少子高齢化や過疎化等の社会課題を解決する活動
 (遠隔操作ロボットや自動走行車など)

49

もう1つは「TEAM EXPO 2025」です。感染症対策や、子どもや高齢者との交流イベント、技術で少子高齢化や過疎社会との課題を解決する活動、防災減災などを書いています。色々なカテゴリーがあるかと思いますが、今から出来ることですので、これらに取組んでいただき、是非万博についての主役になっていただきたいと思っています。いつまでも博覧会協会だけが主役といったことはやってはいけないことだと思います。そうすると万博はうまくいかないと思っています。我々の活動は、万博の主役になってくださる方を増やすことが目的だと思っています。その中で、今から取り組んでいただける枠組みの大きな1つが「TEAM EXPO 2025」でございます。

過去のイベントからの継承

国家事業である万博は、参加各国から首脳や企業VIP等が訪れることから、**海外各国・企業とのつながりを強化する場にも**

2025年大阪・関西万博

ワールドマスターズゲームズ (2022年)
 東京オリンピック・パラリンピック (2021年)
 ラグビーワールド杯 (2019年)

2005年愛・地球博

1970年大阪万博

1964年東京オリンピック・パラリンピック

万博を世界・日本・地域の次の時代をつくるきっかけに

50

過去のイベントから継承してということで、東京オリパラ、ワールドマスターズゲームズの次は、いよいよ2025年大阪・関西万博ということでございます。

2025年日本国際博覧会がめざす姿



- ◆「モノを見せる場」から「コトを感じる場」に、
「観る」万博から「参画し、共に創る」万博に
- ◆コロナウイルス感染症の地球規模の拡大という
未曾有の局面を経験、世界の国々と
「いのち」を考え、「社会」を検証し、提案する機会に

**「いのち輝く未来社会」の実現に向け、
世の中を変える動きを
創り出すような新しい万博に！**



51

言うは易しですが、「モノを見せる場」から「コトを感じる場」に、「観る」万博から「参画し、共に創る」万博に、「いのち」を考え、「社会」を検証し、提案する機会に、そして、面白く笑いのある、小学生や幼稚園の方に喜んでもらえて、その方々が「お父ちゃんお母ちゃん行こう、おじいちゃんおばあちゃん行こう」となり、それが日本人だけではなくアジアの方々、世界の方々へと広がっていけば、万博は成功するのではと思っています。

2025年大阪・関西万博の成功を！



2025年大阪・関西の万博の成功をめざし、是非今日聞いてくださっている皆さまに、一人でも多く主役になっていただければありがたいと思っています。今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。

以上